

## 各章の要約\*

### 第1章 ソ連崩壊30年の米ロ関係とロシアの政策

下斗米 伸夫

ウクライナをめぐる米国とロシアの対立は、ヨーロッパだけでなく全世界の安全保障の枠組みを規定する最重要な要因の一つである。それゆえに、2021年に行われた米ロ会談では、ウクライナのNATO加盟の是非と米ロの戦略的安定が議題となった。本稿は、ソ連崩壊30年にして再度流動化するユーラシアの政治変動とロシアの立ち位置を検証することを目的とし、ウクライナをめぐる米ロ・NATO関係、ロシア・ウクライナ関係について概観し、(ロシアを中心に創設された) 集団安全保障機構との関係から2022年1月のカザフスタン暴動についても総括する。ウクライナをめぐる米・NATOとロシア間の対立は、その実、米欧関係や米国内での対ロ政策をめぐる対立でもあることが示唆され、またカザフスタン暴動では2020年秋のナゴルノ・カラバフ紛争時とは異なってロシアは積極的に関与し、ユーラシアにおける自らの立ち位置を強めたと言える。(2022年1月30日脱稿)

### 第2章 2021年下院選挙——プーチン体制の安定性への含意

溝口 修平

2021年9月17-19日に行われた連邦議会下院選挙は2024年の大統領選挙を前にして行われる最後の国政選挙であり、現在のプーチン体制の安定性を評価する一つの指標でもある。この選挙に与党統一ロシアが圧勝したことにより、プーチン大統領の現在の任期が満了する2024年までの議会運営の安定が保証された。その一方で、今回の選挙では政権による抑圧や不正がこれまで以上の規模で見られ、それだけ国民の間でプーチン政権の正統性が低下しつつあることも示された。(2022年2月18日脱稿、3月4日追記)

### 第3章 憲法改正後のロシアの中央・地方関係

——政治的・経済的安定のための中央集権化の再開

中馬 瑞貴

近年、ロシアの地域間経済格差は広がり、また一部地域では債務問題が深刻化していたが、コロナ禍により経済発展の進んだ地域でさえ財政赤字に悩まされるようになった。こうした事態に対し、連邦政府は再選の不安視される現職首長を任期満了前に辞任させ、代わりを務める首長代行を大統領が任命し、選挙での当選を確実にさせる事実上の大統領任命制を敷くことで対応しようとしている。これは、連邦政府主導で地域の発展に寄与しうる有能な人材の育成を育成し、適切に配置しようとするものと理解することができるが、ロシアの中央・地方関係の模索はまだまだ続いているとも言える。(2022年2月3日脱稿)

### 第4章 ロシアにおける政軍関係の変容

岡田 美保

プーチン政権下のロシアでは、政治と社会の間ならびに社会と軍の間に、脅威の所在や脅威への対処方法について、おおよその認識が共有されてきた。そして政権の対外強硬路線が支持率の上昇と超多数派の形成を促し、軍の地位向上にもつながるサイクルが形成さ

れ、体制の継続性が維持されてきた。「特別軍事作戦」と称するウクライナ侵略が開始された後も、2022年3月上旬の時点では、依然としてこのサイクルは有効に機能している。しかし、ウクライナ侵攻に対する異議申し立ては、ロシア国内からも国際社会からも様々な形で広がっており、プーチン体制を支えてきた政権基盤に変動や崩壊の兆候が現れつつある。(2022年3月8日脱稿)

## 第5章 「歴史的書き換え」に対するプーチン政権の最近の動向

### ——「ハバロフスク裁判」フォーラムと日ロ関係への影響から

小林 昭菜

クリミア危機以後、ロシアが国際的に孤立を深める中、第二次世界大戦におけるソ連の貢献を積極的にアピールする傾向が強まっている。そうしたなか、2021年9月には大戦中の日本軍の戦争犯罪を「裁いた」「ハバロフスク裁判」を題材とした国際学術実践フォーラムなるものが開催され、政権主導での日ロ間の歴史問題の「掘り起こし」が行われている。今回のフォーラム自体は日ロ関係に直接は影響しなかったものの、今後同様の歴史の「掘り起こし」が両国関係にマイナスの影響をおよぼしかねない。政治、経済、学術、民間のあらゆるレベルでロシアとの対話を続け、歴史問題での対立は避けるべきであろう。(2022年2月24日脱稿)

## 第6章 脱炭素という世界潮流の中で揺れ動くロシア

### ——森林吸収への熱視線とCCSという世界最大のポテンシャルを有するロシアの強かな対応

原田 大輔

欧州では、コロナ禍からの経済復興の原動力として、水素へのエネルギー代替に注目が集まり、それに引き摺られる形で世界各国が脱炭素に大きく舵を切った。ロシアもこうした世界が志向し始めた新たな「水素ゲーム」に対応すべく、GazpromやRosatomを中心に具体的なプロジェクトを立ち上げた。また、広大な領土を有するロシアは、二酸化炭素の森林吸収力と地下貯留(CCS)に期待をかけ、欧州が導入しようとしている炭素国境調整メカニズムに対抗していこうとしているが、いずれも事業化には課題を抱えている。他方、日露間においてはCCS事業化の好条件が整っており、二酸化炭素貯留分野での協力発展の可能性が高まっている。(2022年1月26日脱稿)

## 第7章 ロシアの航空機産業の30年の歩み——ソ連型産業統制メカニズムの復活か？

伏田 寛範

ソ連崩壊から30年目を迎えた2021年、マスコミを中心にロシア政治・社会の「ソ連回帰」が指摘されている。本稿は、軍事大国ソ連・ロシアを支えてきた軍需産業の中核部門である航空機産業を取り上げ、ソ連崩壊後30年にわたる同産業の改革について概観する。航空機産業においても一見ソ連時代を彷彿とさせる組織が近年形成されたが、市場経済の下で機能することが大前提となっている点で単純な「ソ連回帰」ではないことが示されている。だが、この「ネオソビエト的」に再編されたロシアの航空機産業が今後西側と伍してゆけるのかは疑問である。とりわけ、技術面においては西側とのデカップリングが進むことで

新技術の導入が困難となり、航空機産業の競争力が低下することが懸念される。(2022年2月21日脱稿)

## 第8章 ソ連解体30年とロシア外交——欧米・旧ソ連諸国との関係を中心に

廣瀬 陽子

ソ連解体30年を迎えた2021年、勢力圏の問題がロシア外交の趨勢を決したと言える。勢力圏構想はロシア外交の根幹だが、そこにおいては欧米やNATOによる外部のコミットメントを許さず、内側からの離反を許さず連帯を強化しようとする。2021年はこの二つの動きが同時に進められ、それを最も象徴したのが2021年末からのウクライナ危機である。ウクライナ危機がどのような結論になろうとも、ロシア外交は新たなフェイズに転換した。今後、ロシアは世界の中心を担う極の一つになれるのか、それとも制裁で破滅的状况におーいるのか、はたまた第三の道があるのか、注視してゆく必要がある。(2022年2月20日脱稿)

## 第9章 ウクライナ戦争とNATOをめぐるロシアの言説と現実

山添 博史

プーチン政権は長年、NATOの東方拡大はロシアに対する安全保障上の脅威であると主張してきたが、その実、ロシア側からNATOのロシアへの「接近」を引き起こすような行動を繰り返してきた。今回のウクライナ戦争においても、当初ロシアは「NATO拡大脅威論」に基づきウクライナのNATO加盟阻止が目的であるかのように主張していたし、日本国内でもそのように説明されてきたが、いざ戦争が始まるやプーチン政権はNATOの軍備の問題は全く度外視してウクライナ全土の屈服を目標に行動している。合理的な安全保障の課題の追求が、非合理で感情的なウクライナ問題に圧倒されて、全体の整合性が取れなくなっている。プーチン・ロシアの払うべき代償はあまりにも重い。(2022年3月7日脱稿)

## 第10章 ウクライナの軍事力——旧ソ連第2位の軍事力の現状、課題、展望

小泉 悠

ウクライナは旧ソ連の中でもロシアに次ぐ軍事力を有し欧州諸国と比較してもその規模は決して小さくない。それでも2014年にウクライナはロシアから軍事侵攻を受け、2021年秋から2022年初頭にかけては再びロシアの軍事的威圧に晒されている。本章ではソ連崩壊後から2014年のロシアによるクリミア併合までのウクライナ軍の歩み、クリミア併合後のウクライナ軍の立て直し、西側諸国の援助などについて概観し、現在のウクライナの対ロシア抑止と有事への対処について検討している。ロシアが侵攻に踏み切った場合、ウクライナは中長期的な軍事力増強を一時的に放棄し、当面の戦争に敗北しないことに集中せざるを得なくなる可能性が非常に高いことが指摘される。(2022年2月20日脱稿)

## 第11章 進化する露中関係——高まり続けるロシアのプレゼンス

熊倉 潤

2021年夏の米軍のアフガニスタン撤退、2022年1月のカザフスタンでの混乱を受けて、ロシアと中国は一層の協力関係に入った。露中両国がこれら2つの事案に見る脅威につい

ては多少の違いはあるものの、共通する脅威に対する共闘が強調されている。新疆問題を抱える中国にとって、安全保障面でのロシアのプレゼンスは否応なく高まっており、露中両国間の経済的な非対称にもかかわらず、ロシアは中国に対する自国の政治的な地位を特別なものとしてきている。(2022年1月29日脱稿)

\* 今回の報告書に収録した論考の大半は2022年2月24日のロシアによるウクライナ侵攻以前に執筆されたものであり、いまだ流動的なウクライナ戦争については十分なフォローがなされていないことをあらかじめお断りする。今般のウクライナ戦争については、令和4年度の最終報告書にて改めて分析することにした。